1.　「第２９回 修習技術者セミナー」報告

2016.12.01
修習技術者支援委員会
委員補佐　新海平

2.　研修会概要

日　時　平成 28 年 11 月 19 日（土）
10:00～19:20
主　催　社団法人日本技術士会
修習技術者支援委員会
会　場　日本技術士会葺手第二ビル５階

3.　研修会の内容

挨拶・開会の宣言 修習技術者支援委員会 委員長	10:00～10:05 川村　智
オリエンテーション、グループ討議の課題及び進め方の説明 修習技術者支援委員会 副委員長	10:05～10:20 石附　尚志
第一課題のグループ討議 （１００分）	10:20～12:00
第一課題の発表と質疑応答	12:00～12:50
昼食（グループで会食）	12:50～13:30
第二課題のグループ討議 （１７０分）	13:30～16:20
第二課題の発表と質疑応答	16:20～17:20
休憩	17:20～17:25
講評 修習技術者支援委員会 副委員長	17:25～17:30 野村　晃平
参加修了証明書授与 修習技術者支援委員会 委員長	17:30～17:50 川村　智
終了の挨拶 修習技術者支援委員会 委員長	17:50～18:00 川村　智
後片付け	18:00～18:10
情報交流会	18:10～19:20

4.　研修会の参加者

今回の研修セミナーは、技術士第一次試験合格者、JABEE 修了予定者（修了者を含む）及び大学院生を対象とした修習技術者研修セミナーであった。本セミナーには11名が参加した。参加者ステータスについて、準会員よりも非会員の方が多かった。

参加者の技術部門は、応用理学、機械部門、電気電子部門、他であった。参加者の居住地は関東を中心とした参加者が多かったが、長野からの参加者もいた。なお、参加動機については複数回答であるため、合計が参加者数よりも多くなっている。

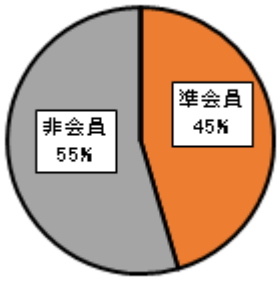

図１　参加者ステータス

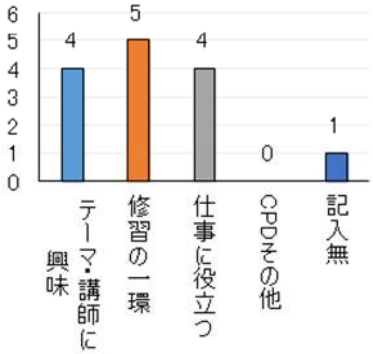

図２　参加動機（複数回答）

5.　研修会の状況について

今回のセミナーでは、まず修習技術者支援委員会の川村智委員長の開会挨拶があり、セミナーの目的は、文科省技術士分科会により２014年3月に制定された「技術士に求められる資質能力（業務遂行能力）」について理解を深めることであると、セミナーの趣旨説明があった。特に今回は「安全で安心できる社会を目指して」が研修テーマであり、安全・安心な社会構築での技術士の果たすべき役割を説明した。

写真１　川村智委員長の開会挨拶

続いて、司会者であり修習技術者支援副委員長の石附尚志委員による「セミナーの説明」があった。セミナーで実施するグループ討議の進め方を説明した。進め方において、参加者に事前に渡された事例課題の内、本セミナーで重要な部分を説明した。

写真２　石附尚志副委員長の説明

グループ討議は、3 グループに分かれて、午前１２０分間、午後１７０分間行われた。午前のテーマは「現実にたちはだかる障壁」、午後のテーマは午前のテーマを踏まえて「技術士の果たすべき役割を考え、より実現性のある目標と行う動計画の策定」であった。各グループにおいて、午前、午後のリーダーと発表者を決めてから討議を進めた。

写真３　グループ討議の様子

◆　**グループＡについて**

グループ A は安全･安心の障壁として内的要因と外的要因とに分類および開発者や管理者等の立場とに分類した上でマトリックスにまとめた。その結果、障壁はコミュニケーション不足および工数/技術の不足であると説明した。それらの障壁を取り除くために、技術士の果たすべき役割を考えた結果、開発者にとっては適切なコミュニケーションおよびスキル UP が必要であると説明した。管理者にとっては部下への理解やマネージメントの工夫が必要であると説明した。

写真４　グループＡの発表

◆　**グループＢについて**

グループ B は安全・安心の障壁として内的要因と外的要因とに分類および開発実務担当者、上司・経営の立場とに分類し、それぞれでの問題点を洗い出した。その結果、障壁は上司・経営の立場の方が無関心であると説明した。それらの障壁を取り除くために、技術士の果たす役割を考えた結果、開発実務担当者がグループのリーダーとなり、積極的に周囲に安全・安心の品質を分かりやすく伝えることであると説明した。そのために、2017 年 12 月および 2020 年 1 月までにより実現性のある行動計画について説明した。

写真５　グループＢの発表

◆　**グループＣについて**

グループＣは安全･安心の障壁として教育、工程、組織に分類し、教育の中からプレゼン能力が弱いことであると説明した。その障壁を取り除くために、技術士の果たす役割を考えた結果、一般の人にも分かるように説明することを目標とした。そのために行動計画として、半年、2 年、3 年後の手法や実施策を説明した。

写真６　グループＣの発表

◆　**午後の発表について**

午後の発表においては、各グループが考えた実現性のある目標と行動計画だけでなく、参加者各自が行動計画を発表した。

◆　**講評**

本グループ発表に対して、修習技術者支援委員会の野村晃平副委員長が講評した。

グループＡの発表については、発表資料が見やすいと述べられた。

グループＢの発表については、題意がおおむね良く、それぞれの立場として説明していると述べられた。

グループＣの発表については、目標を明示して説明していると述べられた。

最後に川村智委員長から各参加者に対して、修了証が授与された。

6.　情報交流会の状況について

情報交流会には、今回も大勢の方が参加した。研修会参加者と修習技術者支援委員会関係者とで、講演内容などを踏まえた、活発な意見交換が行われた。また、今後の修習活動に向けても、積極的な情報交換が行われた。

以　上